

陸自、戦争法新任務の訓練

武器使用場面は非公開

がそれぞれの土塁の持ち場で警告を行うとの想定で実施。暴徒は投石を始めるなど次第に行動を激化させ、小銃を持った一団が加わったところで、公開は打ち切られました。

陸上自衛隊は24日、戦争法に基づく最初の新任務に向けた準備を進めている。南スーダンPKO（国連平和維持活動）に派兵予定の第11次隊の訓練を岩手山演習場（岩手県滝沢市、八幡平市）で報道陣に公開しました。同法に基づく訓練の公開は初めて。↓関連画像

新任務として公開したのは、他国軍の要員が武装集団に襲われた場合などに自衛隊が加勢に向かう「駆け付け警護」と、「他国軍と「駆け付け警護」訓練は、国連関係職員がいる建物周辺が非武装の暴徒に取り囲まれ、退避できなくなっているとの想定で行われました。89式小銃や拳銃を装備した隊員らが到着し、一道を開ける」と複数回の警告を発した後、盾と装甲車を使って暴徒の強制排除を開始。職員を救出して脱出しました。

「宿営地の共同防護」訓練は、暴徒が宿営地外に押しかけ、自衛隊と「A国軍」



「駆け付け警護」の訓練で暴徒を追い払う陸上自衛隊＝24日、岩手山演習場（岩手県滝沢市、八幡平市）

10/25
百旗